

ひまわり家の歩み

- 昭和 53 年（1978）
10 月 身体障害者小規模授産所
「ひまわりの家」設立
- 平成 3 年（1991）
心身障害者小規模授産施設
として再スタート
- 平成 6 年（1994）
現在地に新築・移転
- 平成 8 年（1996）
4 月 管理運営を市社会福祉協
議会に委託。調理実習始める
- 9 月 岐阜少年自然の家で宿泊訓
練始める
- 平成 9 年（1997）
サツマイモの栽培始める
- 12 月 買い物実習始める
- 平成 15 年（2003）
4 月 礼儀作法を学ぶ



実りの秋！／親の会の皆さんと、サツマイモ堀りを行いました。さて、どんなで野外での作業は大はしゃぎです

料理になるのか、楽しみです。日ごろ、室内での作業が多いの



施設長の可児 要さん（右端）とスタッフの皆さん

今から27年前、初めて市内に授産施設が誕生しました。「ひまわりの家」です。

当初は、身体障がい者の授産施設でした。ひまわりの家の歴史は、美濃加茂市の授産施設の歴史でもあります。

心身障害者
小規模通所授産施設

ひまわりの家

ひまわりの家は、昭和53年市前平町の民家を借りて誕生しました。当初は、「身体障害者小規模授産所」でしたが、その後知的障がい者の入所が増えたことにより、平成3年からは「心身障害者小規模授産所」として再スタートをしました。平成6年には、総合福祉会館が建設されたのに伴い、現在地に新築・移転しました。

現在、12人が、毎日元氣よく通ってきます。ここは、心身障がい者の自立に必要な訓練の場として、作業を通じて機能回復を図るとともに、自己の能力を伸ばし、地域で暮らせることを目的に開設しています。

主な日課は、南に面した作業場で、自動車用部品を加工する際にできる「ばり取り」です。ノルマはありませんが、みんな一生懸命です。手のひらほどのゴム製品の一部を慣れた手つきで取り除きます。

この受託作業は、平成8年、近くのゴム製品製造会社の協力によりできるようになりました。こうした作業を

通して、自主性や協調性を養うとともに、作業指示の理解を深めます。

音楽療法として、ハンド・ベルを習い始めました。現在は、トーン・チャイムを習っています。最初は、楽器に戸惑っていたそうですが、毎週練習を積み重ね、13曲ほど演奏できるようになりました。

活動の場も広がり、老人施設へ慰問するまでになりました。

新たな試みとして、10月に総合福祉会館で行われた

「健康・福祉すこやかフェスティバル」で、茶道の野点（のだて）に挑戦しました。

彼らは、茶道の流儀はまだまだ理解できませんが、それでも一生懸命取り組む姿が多くの人に好評でした。



7月には、越智章仁さんの「七タコンサート」に友情出演しました

地域との交流を深める「夕涼み会」



夕涼み会／地域の人たちとの踊りの輪ができました

今、ひまわりの家では、地域の皆さんとの交流を大切にしよう、さまざまな行事に取り組んでいます。その一つに「夕涼み会」があります。行事を通して、地域の皆さんと知り合うことにより、彼らが施設の周辺を歩いていても声をかけていただくようになりました。

盆踊りで、踊りの輪が広がったように、地域の中でひまわりの家の存在の輪が、広がると思います。こうした行事は、彼らにとって社会参加へのきっかけになります。

心身障害者小規模通所授産施設

ひまわりの家

- 所在地 新池町 2 - 5 - 48
- 設置 美濃加茂市
- 運営 市社会福祉協議会
- 定員 25 人
- 電話・FAX 25-8197



ステンドグラスと時計台が目印です